

IV-97

地方都市圏における新幹線利用形態の分析

J R 東日本 正会員 有川 貞久

J R 東日本 溝井 宗一

J R 東日本 押見 富保

1. 研究の目的

近年、首都圏のみならず地方都市圏においても、交通行動の多様化、遠距離通勤・通学の増加により新幹線利用の増加傾向が見られる。今回、地方都市圏における新幹線利用形態について、上越新幹線新潟・長岡間を事例に地方都市圏内における新幹線利用についての調査を行った。その結果から、地方都市圏内における新幹線の利用実態、駅勢圏、パークアンドライド（以下P&R）を中心としたアクセス・イグレス状況及び新幹線利用意識の分析を行い、地方都市圏内における新幹線の利用形態を明らかにすることを目的とする。

2. 新潟・長岡間の流動の変化

長岡市から新潟市への通勤・通学利用者は平成7年国勢調査によると通勤で1,021人、通学で603人である。双方とも昭和60年以降、急激に増加しており、特に平成2年から7年にかけては通勤が5割増、通学が約2倍の増加を見せている。

表-1 アンケート調査の概要

調査日時: 平成10年12月16日(水)
調査対象: 長岡駅、燕三条駅から新潟方面へ向かう利用者
調査方法: 長岡・燕三条両駅の下りホームにて自由席乗車のお客様にアンケート用紙を配布し、車内で記入後、新潟駅で回収
調査対象列車: 21本(始発から長岡20:04発まで)
サンプル数: 934票(長岡809票、燕三条125票)

3. 新幹線利用者の交通行動特性

アンケート調査の概要を表-1に示す。その結果、明らかとなった特徴的項目は以下の通りである。

(1) 利用者属性

利用者年齢層のうち、男性の半数は40～50代、女性の半数は20～30代が占めており、男女に違いが見られた。それを裏付けるように、職業は男性の約7割が会社員となっているが、女性の場合、会社員は約4割で学生・主婦がそれぞれ約2割を占め男性と異なった属性を示している。

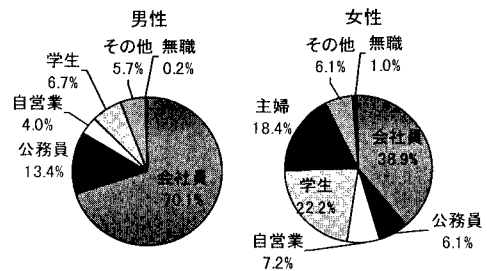


図-1 男女別職業構成

(2) 利用目的・頻度

通勤通学の定期利用が約43%、私事業務・観光等の定期外利用が約57%を占めており、定期利用の多さは国勢調査の結果を裏付けるものとなっている。また、通勤者の利用開始時期は平成10年から始めた人が約30%、平成8年からのを含めると60%に達する。また、私事・業務の利用頻度は月平均1往復未満1/4程度であり、1往復が約30%、2往復が約20%と比較的利用頻度は高いといえる。

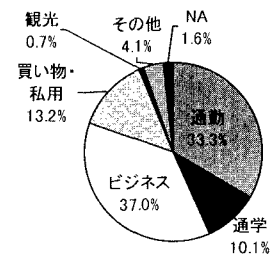


図-2 利用目的

キーワード：地方都市圏、新幹線輸送、利用形態、パークアンドライド

連絡先：〒370-8543 群馬県高崎市栄町6-26 Tel. 027-324-9362

(3) 交通行動特性

①利用者の駅勢圏・アクセス手段

利用者の駅勢圏は長岡・燕三条とも約65%が市内（長岡・燕・三条）が発地である。駅へのアクセス手段は、長岡は徒歩が最も多く駅勢圏は比較的狭いことわかる。一方、駅周辺に駐車場が多数存在する燕三条はP&R、K&R、タクシーの私的交通機関が約2/3を占め、駅端末交通手段の整備状況の違いがアクセス手段の分担率の違いとなって現れている。

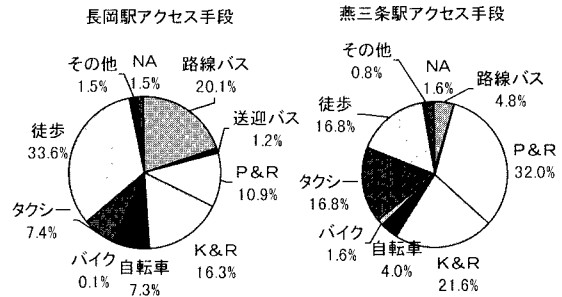


図-3 駅別アクセス手段

②P&R利用形態

通勤の14.5%、通学の4.3%、業務の9.0%、私用その他の26%がアクセス手段としてP&Rを利用している。P&R利用者の駅勢圏平均は8.9km、車で16.8分である。駐車場の利用形態は月極と日貸の比率が概ね3対2となっている。

③イグレス手段の分析

新潟駅到着後、在来線に乗り換えるケースは少なく、端末交通機関を利用している人が最も多い。端末交通手段内訳は徒歩が多くを占めている。このことより、新幹線降車後における端末交通手段のサービスレベルの低さから利用者の交通機関選択がこのような結果をもたらしているものと考えられる。

4. 考察・まとめ

(1)発地・着地と利用者意識の関係

P&R利用は調査前の仮定よりも少ない結果となった。その理由として、駅勢圏及び目的地が駅周辺に近い地域が比較的多くを占めており、徒歩やバスを端末交通手段として用いているからであると考えられる。図-4の利用理由において、「駅から目的地が近い」「家から駅が近い」という理由を延べ30%の利用者が挙げていることから明らかである。

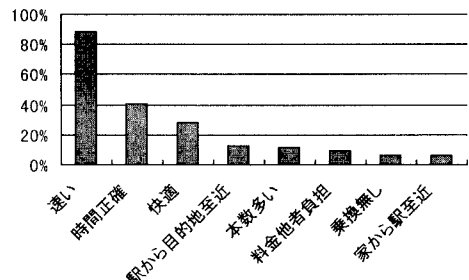


図-4 新幹線利用理由

(2)まとめ

- ・長岡・新潟間において、近年新幹線通勤・通学利用者が増加しており、全体利用者のうち通勤通学が約40%を占めている。
- ・駅勢圏は比較的狭く、P&R利用者は全体の約16%に過ぎない。
- ・イグレスについては、新潟駅で下車するケースが最も多い。目的地は駅周辺が約40%を占めている。

5. 今後の課題

- ・地方都市圏における新幹線を利用したP&R施策の推進方策の検討
- ・駅周辺駐車場整備の効果による自動車・高速バスから新幹線への需要転移数の推計

<参考> 青島 縮次郎他：地方都市圏における「パークアンドライド」の交通行動特性から見たその利用促進策の検討

（土木学会第53回年次学術講演会 講演概要集 pp634～635）